

令和7年度 自己評価報告書

1 園の教育目標

- ・「人」として育つための基礎づくりの場として、一人ひとりが尊重され、心豊かに育つ、自己表現できる環境であり続ける。
- ・人的環境（教職の資質）と物的環境（施設設備）がバランスよく準備され、人間形成に必要な環境として存在する。

2 本年度に定めた重点的に取り組む目標

- ・カトリック教育・モンテッソーリ教育の環境を深く理解し、子どもたちの手本となるよう熱心にその教えを実践していく教職員であることを目指す。
- ・社会情勢の不安定さからくる家庭での子育ての不安、懸念事項が増幅する中でも、当園独自の施設環境や異年齢保育を活かし、これまでの教育内容を維持し保護者と、より協同して子育て支援を充実させる。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み内容	評価	取り組み状況
教育内容の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・行事内容の見直し、日程の調整により毎日継続して開園し、保育ができるよう再考する。 ・学期ごとに細かい打ち合わせや共通認識を図り、保育内容の見直しを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・従来のやり方に捉われず、日程や環境を適宜変更しながら、行事や日々の保育の準備を進めることができた。 ・時折、職員間での情報の共有がうまくいかず認識の違いが出ることがあった。
教育環境の見直し 施設整備・モンテッソーリ教育の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭遊具の点検、確認。 (ブランコの座面交換、乗り物や砂場遊びの道具の定期的な安全確認) ・園児の興味関心、集中力を養うためのモンテッソーリ活動の更なる内容の充実、展開。園児へ提供するための園内研修や自己練習、実践。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の環境設定の中で、修繕する物や更新する必要がある物を確認し、園児の日々の安全確保に努めた。 ・年齢や発達段階に応じて必要な環境を準備し、園児の深い集中力や興味関心を引き出せるよう提供を行った。 ・提供方法の理解度に差があり、よって偏りが出ることもあった。今後の自己練習、園内研修の充実が必須。
配慮の必要な園児への支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとクラス2人体制を維持できたことにより、様々なタイプの園児に対応。 ・発達支援センター等への提出用の個人記録の作成。 ・スムーズな接続のため就学先小学校へ年長児に関する積極的な情報提供や支援の依頼。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任だけでなく、サポートする教員を配置することで、保育観の偏りを少しでも減らし、様々な特性を持った園児にも落ち着いて対応できた。 ・関連する発達支援センターや各就学予定先の小学校と電話もしくは保育参観のため来園してもらい積極的に情報を共有し、スムーズな連携を実現できるよう常に考慮した。

総合的な評価結果

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・園児ひとりひとりに寄り添った保育ができるよう、自主活動の時間の充実や、行事・保育内容の見直しなど、それぞれが目標や意識を持って臨めた。受け身になってしまうこともあったため、主体的に保育を展開できるよう引き続き努力を継続していきたい。

評価（A…十分にあった B…成果があった C…少しあった D…成果がなかった）